

日本ものづくり中小企業の新たな発展に向けて ゼネラルプロダクション株式会社

高品質で深い技術を持つ日本の中小企業。それらの中小企業を束ね、製品のキーパーツを武器に国内外の市場からの注文獲得をめざす、中小企業再生のビジネスモデルを展開するゼネラルプロダクション株式会社の石崎 義公社長からご寄稿いただきました。

日本ものづくり産業の歴史

日本のものづくり産業は、高い技術力と絶え間ない品質の追求により、世界に誇る高品質ブランドとしての地位を確立してまいりました。しかしながら、高い技術力を有しているにもかかわらず、現在の日本のものづくり産業では、中堅・中小をはじめとする多くの企業で縮小、廃業、倒産が相次いでおります。その原因のひとつとして、日本は単工程（鍛造、鍛造、加工、熱処理、メッキ、成型、プレス等）に特化した中堅・中小企業が多いということがあげられます。世界に誇る高品質な技術を持ちながら、あまりにも単工程であるために、日本のものづくりは、海外メーカーが発注しにくい状況となっております。しかし、日本独特の世界に類を見ないこの体制が、日本の産業を支えてきたのです。

力が高く、日系の海外進出企業や現地地場企業も国内調達ができない状況にあります。

この切り口を主体としたビジネスモデルでゼネプロ会社がQCD*の責任を持って、主に海外に販売して行く考えです。継続生産品を対象とし、開発から量産までの案件も請け負います。

現在参加企業は79社(3月25日時点)で、今後150社程に増やしていく考えです。

(*QCD…Q:品質(Quality)、C:コスト(Cost)、D:納期(Delivery))



代表取締役社長 石崎 義公氏

ゼネラルプロダクション(株)(ゼネプロ)設立経緯

私は29歳のときにひとりで、(株)タカコという精密油圧部品の会社を始めました。その間、沢山の職人の方々を支えられ、現在はベトナム、アメリカにも工場を持ち、売上100億以上を超える会社に成長いたしました。

大手企業の海外進出や、国内市場の縮小が進む中、日本のものづくりの灯が消えようとしています。「日本のものづくりの灯を消したくない。この日本が誇る素晴らしいものづくり会社の製造技術でゼネプロ会社が生産技術と工程管理を行い、部品を製造し、海外や国内から受注し、販売することにより、中小企業の活性化をはかろう！」という思いから、ゼネラルプロダクション株式会社の構想が生まれました。

その後、各フォーラムにてこの構想について講演を行ったところ、非常に多くの方が賛同して下さり、昨年9月に会社を設立し、10月にけいはんなプラザにオフィスを開設いたしました。

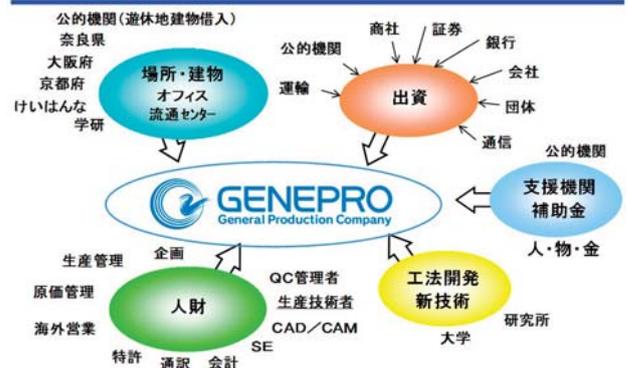
ゼネプロの切り口

ヨーロッパやアメリカ、アジアにおいても、製品の性能を左右するような重要な部品(キーパーツ)は高品質なメイド・イン・ジャパンが求められています。特に特殊鋼を材料とした部品と高度な熱処理や表面処理の組み合わせは競争

ゼネプロ会社の商流



ゼネラルプロダクション株式会社 体系図



京都の中小企業の特徴

一般的に京都は長い歴史の中で、観光客の関心の高い地域として有名です。しかしながら、実は非常に高い技術を持った先端企業、それを支える中小企業が数多く存在しています。特に、「試作ネット」のような小ロットから、大量生産品までできる会社が幅広くカバーしている地域です。

京都での展開

京都は地理的に日本の中心にあるので、全国どこでもフォローが行き届くポジションが企業立地環境の良さを手伝っていると思います。

けいはんな地域には、多くの研究所、ラボがあり、京都府内には沢山の大学があるため、産学が密集している絶好のポジションと言えると思います。

ゼネプロが京都からメイド・イン・ジャパンを代表して世界に発信していけるよう、日本古来の文化を持ち、産学公連携がさかんで、世界的にも有名な京都に立地いたしました。

行政・公的試験研究機関に求めること

中小企業が新しいものづくりにチャレンジするためのものづくり開発支援です。特に、工法開発等における研究開発費があげられます。

ものづくりは工法開発です。技術はすぐに新しくなります。日本の産業を支えてきたのは、ものづくり中小企業による、更なる改善を目指す工法開発の絶え間ない努力です。

近年は行政も研究開発費の支援に力を入れて下さっており、それは大変ありがたいことです。しかしながら、素晴らしい技術を持っていても、膨大な書類作成や、手続きの複雑さから活用できない中小企業は沢山あります。

あまり多くの書類を必要としない、中小企業に使い勝手のよい環境を作って頂ければ、工法開発に取り組む企業が増え、個々の企業の業績があがるだけでなく、将来的な日本ものづくり中小企業の活性化と発展につながるのではないかと思います。

京都府は特に、ものづくり中小企業支援に力を入れている地域ですので、今後の日本ものづくり中小企業政策を牽引するような、シンプルでわかりやすい革新的な支援策に期待したいと思います。

また、工法開発支援に合わせて、中小企業の近代化設備への支援を充実していただければ、品質の安定だけでなく、新たな工法開発への後押しができると思います。

公的試験研究機関については、試験設備を使わせて頂くことができますが、また試験機器をレンタルする方法もあ

れば便利かと思います。その他、中小企業の規模、状況に応じた柔軟な支援策があればより扱いやすくなるでしょう。

京都府は様々な政策をお持ちですが、客先とのマッチング事業により力を入れて頂けると、単独で大手企業に売り込むのが難しい、力のある中小企業の販路開拓の大きな助けとなるとと思います。

ゼネプロのあるべき姿

常にチャレンジする優秀な中小・中堅ものづくり企業の多くをグループ傘下に持ち、世界を相手にものづくり日本の高精度・高品質の商品を販売し、自ら収益をあげながら、各会社の技術伝承を確保し、日本のものづくりを発展させることです。

また、ゼネプロは後継者問題、技術伝承問題に積極的に取り組み、M&Aや株式交換等による方法で、自らがホールディングカンパニーとなります。

中小企業のものづくり技術を残し、活性化するために、優秀な単工程会社をまとめてメイド・イン・ジャパンを世界に売り込んでまいりますので、ご協力の程どうぞよろしくお願い致します。



いしざき よしと 石崎 義公氏 プロフィール

昭和19年3月19日生まれ
滋賀県甲賀市信楽町多羅尾出身
株式会社タカコ 取締役会長
TSW PRODUCT CO., LTD (米国) Director
TAKAKO VIETNAM CO., LTD (ベトナム) 取締役会長
ゼネラルプロダクション株式会社 代表取締役社長
NPO 地域基盤技術継承プラザ理事長
東大阪商工会議所常議員、TOPS東大阪代表幹事
大学非常勤講師、全国諸団体等講演会での講師など多方面で活躍中
著書 「まあいっぺん聞いとくなはれ」 産経新聞出版

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
企画連携課 情報・デザイン担当

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-9497
E-mail:design@mtc.pref.kyoto.lg.jp